



TITLE:

# テリハボク果実の和歌山県下で3例目の漂着記録

AUTHOR(S):

久保田, 信

---

CITATION:

久保田, 信. テリハボク果実の和歌山県下で3例目の漂着記録. 漂着物学会誌 2015, 13: 65-65

ISSUE DATE:

2015-12

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/204534>

RIGHT:

## テリハボク果実の和歌山県下で3例目の漂着記録

久保田 信<sup>1</sup>

Fruit of *Calophyllum inophyllum* L. washed ashore at a coast of Wakayama,  
Japan as the third record in this Prefecture

Shin KUBOTA<sup>1</sup>

和歌山県白浜町に所在する京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所周辺の番所崎とそこに隣接する通称“北浜・南浜”の磯浜海岸には、これまで漂着例の稀少な熱帯系植物の散布体が記録されている（久保田 2003, 2006, 2011；久保田ほか 2004, 2008；中西ほか 2006）。今回、2014年にテリハボク *Calophyllum inophyllum* L. の果実（中西・石井 2010）が当該地区に珍しく漂着したので報告する。

オトギリソウ科のテリハボクは日本では琉球列島と小笠原諸島に分布するが（中西 2008）、その果実

1個が、2014年11月6日に京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”に漂着した（図1）。本地区からは2例目の記録で、長径約27mmの球体で、前回の記録（久保田ほか 2008）よりも少し大きい。本果実の和歌山県下への漂着は、串本町潮岬で最初に記録されている（中西 1999）。本果実の日本本土への漂着記録は、1969年から40年間でわずか18個だけと稀である（中西・石井 2010）。紀伊半島付近では、徳島県沿岸（池淵・茨木 2005）や渥美半島（はやし 2013）での漂着記録がある。

### 引用文献

- 池淵正明・茨木 靖. 2005. 徳島県の漂着種子と果実2. 漂着物学会会報, (12): 6.  
はやししげお. 2013. 2012渥美半島漂着ブレイク・その傾向と対策. 漂着物学会会報, (46): 4-6.  
久保田 信. 2003. 南方系植物果実複数種の和歌山県白浜町番所崎への稀な漂着記録. 漂着物学会誌, 1: 31-32.  
久保田 信. 2006. 和歌山県田辺湾に最近漂着した2例目のモダマ（マメ科）の種子. 南紀生物, 48(2): 168.  
久保田 信. 2011. 和歌山県沿岸に漂着したサガリバナ *Barringtonia racemosa*（サガリバナ科）の果実. 南紀生物, 53(1): 78.  
久保田 信・檜山嘉郎・中西弘樹. 2008. 和歌山県白浜町番所崎およびその近隣海岸へ夏季の短期間に集中漂着した熱帯起源の植物散布体. 漂着物学会誌, 6: 25-26.  
久保田 信・永益英敏・中西弘樹. 2004. イルカンダ（マメ科）種子の本州への漂着初記録. 南紀生物, 46(1): 37-38.  
中西弘樹. 1999. 漂着物学入門. 211pp. 平凡社, 東京.  
中西弘樹. 2008. 海から来た植物. 319pp. 八坂書房, 東京.  
中西弘樹・石井 忠. 2010. 日本本土における熱帯起源の漂着果実と種子の40年間の変化. 漂着物学会誌, 8: 7-11.  
中西弘樹・久保田 信・松本敏郎・伊藤正一. 2006. ワニグチモダマ *Mucuna gigantea* (Willd.) DC.（マメ科）の種子の日本本土への漂着. 漂着物学会誌, 4: 41-42.

(Received Mar. 25, 2015; accepted May 25, 2015)



図1 和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所北浜に2014年に漂着したテリハボク果実

<sup>1</sup> 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町459 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所

<sup>1</sup> Seto Marine Biological Laboratory, Field Science Education and Research Center, Kyoto University, Shirahama Town 459, Nishimuro, Wakayama Prefecture 649-2211, Japan